

## 業務改善の実施状況報告

組 織 名	関東森林管理局 上越森林管理署	連 絡 先	025-524-2180
所管する業務の概要	国有林野の管理経営、民有林の森林整備等の指導、治山事業の実施等		

1 職員の基本的な心構え・行動について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの取組実績及び現在実施している取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の課題とその改善策</li> </ul>
<p>1 役所の「硬いイメージ」を払拭し、誰もが気軽に署に来ていただけるよう、事務室出入口を優しく親しみのもてるように模様替えを行い、署のイメージアップを図った。取組状況を署ホームページ（HP）で公表している。</p> <p>2 業務上のOJT計画以外に、自らのスキルアップを図るための自主的な研修を企画・実施した。 具体的には、全職員を対象とした「接遇研修」、新規採用者や若手職員等を対象にした「OJT森林環境教育実践」や「OJT署長コース」等、会議等で現場職員が集まる日を活用してOJT研修を企画・実施して職員のスキル・アップを図った。また、これらのOJTについてもHP上で可能な限り紹介した。</p> <p>3 全職員で接遇マニュアルを実践し、親切・丁寧で明るい職場作りを取組んだ。 具体的には、「不便を改善、便利を形に！」を合言葉に、職場内を見回し来訪者に不便を感じさせているものを探し出し、見づらかった職員配置図や職員玄関から事務所誘導する案内表示を大きく見やすく改善、事務所入口の廊下の壁を利用してメモを取っている人を見かけたので、メモを取れる</p>	<p>• これらの様々な改善の取組が、担当職員が代わっても後退することなく署として継続できるよう、出署日の全体会議やその他の会議等を活用し、職員への呼びかけや意識啓発をこれまで以上に行っていく。</p> <p>• 今後も来訪者及び職員が不便を感じているものを様々な機会を通じて探し出して行くこととしたいが、当署職員だけでは不便を感じている視点が100%国民として機能しない等の課題があることから、臨時職員との意見交換の機会を定期的に設けるとともに併せて、予算の許す範囲で改善を行っていくこととする。</p>

テーブルを設置、レク森・保護林の設定箇所が人目でわかる資料を作成してほしい旨の要望があったので作成、署で作成したパンフレット等を見やすく取り易くするためにパンフレットスタンドを配置等の取組を行った。

また、接遇の更なる向上を目指すため、本年7月に署の「接遇向上会議」を設置し、日々来訪者の対応を行っている臨時職員の方々と定期的な意見交換を行い、職員の接遇の向上に役立てている。

## 2 国民視点に立った業務の遂行について

### ・ これまでの取組実績及び現在実施している取組

1 署のホームページ（以下HPという。）を最大限活用し、積極的にイベントや業務等に関する情報発信に取組んだ。その結果、以前は年5回前後であったHPのアップ回数が、H21.10月～H22.6月の間に52回（月平均6.5回、入札情報を除く）となり、情報発信の回数と内容を大幅に改善できた。

2 自然休養林のガイドマップや署のパンフレット等の作成・改訂に当たって、図や写真を多用するとともに、分かりやすい用語での説明を心掛けた結果、3月末に2万部作成したものが、6月末現在で半分の1万部がすでに配布された。

3 標識類の点検について、去年は積雪等により十分に行えなかったことから、本年度は様々な機会を利用して積極的に点検（腐食状態・PR及び啓発効果）を行っている。

4 小学生の森林教室や各種イベントの開催、森林環境教育の教材開発等に当たって、地元関係者との連携・協力体制の強化及びそのニーズの把握・反映に努めている。

### ・ 今後の課題とその改善策

・ HPの作成に当たって、画像処理の編集に不便を感じたことから、上局の担当者へ相談しHP作成ソフトの改善を要望した。

・ HPの作成について、一部の職員の負担が多くなっていることから、すべての職員が作成できるようにOJTを企画する。

・ 新しい情報を発信するため、パンフレット等の定期的な見直し、改訂が必要であるが、予算及び担当者のセンスが要求されることから誰もが簡単にできる仕事でない。その改善策として、現行のパンフレットを増刷する際に最低限度、写真や名称等の変更を確実にやっていくこととする。

・ 標識の改修及び設置は、予算事情が大きく影響することから、点検結果をもとに改修等の優先順位を付け、これに基づいて順次設置していく。

<p>5 昨年11月に地元関係者をメンバーとする自然休養林管理運営協議会を設置し、地元の理解と協力の下で、その意見を反映した自然休養林の管理と整備を進めている。</p> <p>6 治山事業の実施に当たり、地元自治体や住民に対する事業説明会を開催し、事業内容の説明と地元ニーズの把握を行っている。</p> <p>7 会議・イベント・来訪者等の様々な機会を通じて、職員一人一人が何気ない会話からでも貴重なご意見を拾い上げ、行政ニーズを積極的に把握するよう努めた。</p> <p>8 業務点検委員会によるチェック機能を強化して、リスクマネジメント及びコンプライアンスの改善を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な会議等において収集された貴重な意見や質問等を分類・データ化していないため、今後は、分類・データ化するための様式や情報の共有化についての検討を行う。</li> </ul>
--	--

<h3>3 業務を適切かつ円滑に遂行するための職場環境づくりについて</h3>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの取組実績及び現在実施している取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の課題とその改善策</li> </ul>
<p>1 事務室入口に「森の本棚」を設置して、署や森林関係の文献・パンフレット等を置き、来訪者への情報提供と気軽にコミュニケーションを取れるような雰囲気作りを行った。(http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/apply/publicsale/joetu/100316.html)</p> <p>2 庁舎階段の壁に「みんなで作る森の写真館」を設置して、職員が撮ってきた植物・風景・イベント等の写真を展示し、職員間のコミュニケーション及び来訪者への情報発信を行った。(http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/apply/publicsale/joetu/100602.html)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このような新たな取組みを継続させるためには、省改革の取組みが面白いと職員に感じさせることが重要であることから、OJTと連携し工夫しながら少しずつ職員の意識改革を進めていく。</li> <li>新しい取組を実施するための予算の確保が課題。</li> </ul>

3 職員間で自由に意見が言える、風通しのよい明るい職場環境をつくるのが、業務を円滑に運営していく上で極めて重要であることから、普段から気軽に話し合いが出来るような職場の雰囲気作りに努めた。

#### 4 その他の農林水産省改革を進めるための取組について

・ これまでの取組実績及び現在実施している取組

1 上記の一連の取組は、「上越森林管理署のリフレッシュ対策（イメージ・アップ）」として位置づけ、職員が一丸となって具体的な取組のアイデアを出し合い、実行した結果である。

2 このような当署の取組について、平成21年度関東森林管理局業務・林業技術等発表会において、「国民視点を意識した上越森林管理署の取組について」として発表し、各署への情報提供と普及を図った。（<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/apply/publicsale/joetu/100309.html>）

・ 今後の課題とその改善策

・ このような取組みをさらに職場内に普及させるために、近隣の署や上局との連携が必要である。

・ HPや職場内の会議等を利用し、これらの取組みについて積極的に情報発信していく。また可能であれば、省改革推進のための担当レベルでの意見交換や情報交換を行う会議等を企画していただきたい。